



しあわせ信州

# G A P の推進について

農薬の適正使用はGAP実践に必須の取組です  
GAPの考え方を理解した上で、農薬を扱いましょう

令和5年6月2日 農薬適正使用研修会  
長野県農政部 農業技術課

# G A P とは . . .

**G**ood      **A**gricultural      **P**ractices  
良い      農業の      実施・実践

「人間の健康」 を守り

「自然の環境」 を守り

「持続的農業」 生産を行い

消費者に信頼される

健全な農業を実践すること



# G A Pの取組

- ・ これまでの一連の生産工程を見直す
- ・ 生産工程の中で考えられるリスクを評価する
- ・ 実践できる改善点を洗い出す
- ・ 工程を記録する
- ・ G A Pの基本「食品安全、労働安全、環境保全」

これまでの農業  
**「記憶」**  
と  
**「経験」**



これからの農業  
**「記録」**  
と  
**「点検」**

チェック  
シート  
の  
活用

改善行動  
G A P<sub>3</sub>

# GAPが目指すもの

「よい農業とは何なのか」「期待される農業とは何なのか」

**GAPの3本柱**  
(特に注意する項目)

**食品安全**

農薬適正使用  
は全てに関係

**環境保全**

**労働安全**

**生産工程管理**

**「持続的な農業生産の実現」**

国際水準GAPには、この3本の柱に加えて  
「人権保護」「農場経営管理」が入ります

# 【食品安全】のために



しあわせ信州

例えば…

- ✓ 無登録農薬や無登録農薬の疑いのある資材を使っていませんか
- ✓ 使い慣れた農薬でも、ラベルをよく読んで使用していますか
- ✓ 防除器具には、前回使用した農薬が残っていませんか

# 【環境保全】のために



しあわせ信州

例えば…

- ✓ 農薬は鍵のかかる専用の保管庫・保管室で管理していますか
- ✓ 農薬は使い切りとなるように、必要な散布量を調整するよう努めていますか
- ✓ 農薬を散布する場合は、事前に周辺住民に十分な周知をしていますか

# 【労働安全】のために



しあわせ信州

例えば…

- ✓ 農薬散布など危険を伴う作業には、体調不良者を従事させていませんか
- ✓ 農薬を散布する時は、マスク・手袋・防護服を着用して農薬の被ばく防止対策を行っていますか
- ✓ ケガ無く作業できるよう、雇用者へ作業の際に気を付けるべきポイントを教えていますか

# 長野県適正農業規範について



しあわせ信州

なぜGAPに取り組むのか？  
適正なより良い農業のためには、  
どう改善したらいいのか？

長野県の農業者のあるべき  
姿をまとめたものが  
(3本柱の法令等)

規範に照らし、  
工程管理に  
活用

## 長野県適正農業規範

長野県GAP推進会議  
(長野県農政部・林務部、JA全農長野)

掲載先(長野県ホームページ)

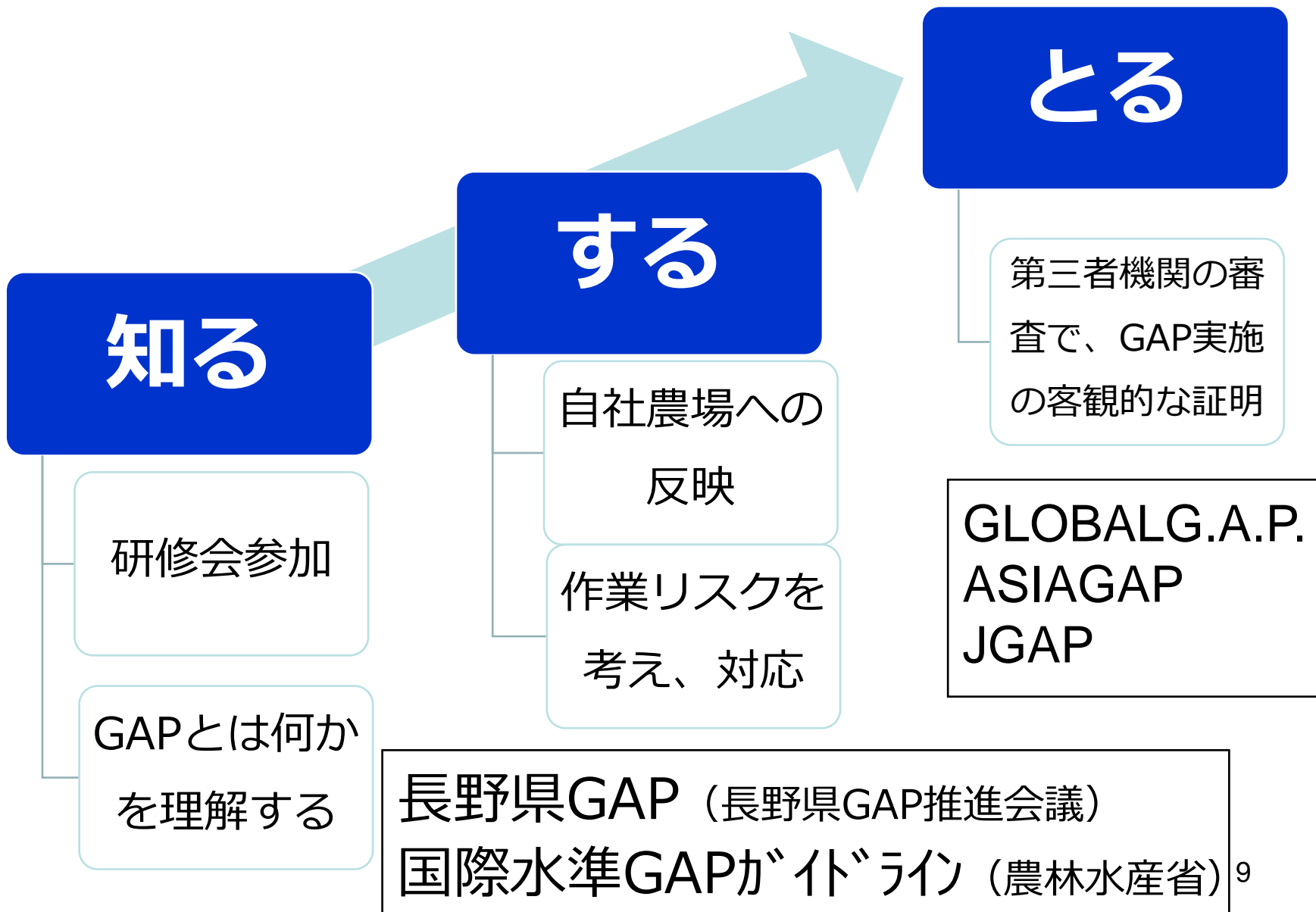
URL: <https://www.pref.nagano.lg.jp/nogi/sangyo/nogyo/hiryo/gap/gap.html>



# (参考)GAPを「知る」「する」「認証をとる」



しあわせ信州



# 【食品安全】のポイント



しあわせ信州

## 消費者に信頼される農産物生産のために

作っているのは食品です。(花き、芝を除く)  
洗わずにそのまま食べる人もいるかもしれません。  
人間は忘れっぽい。間違いを起こす。

- ・想像力を働かせる(予防の原則)
- ・うっかりミスをなくすこと⇒確認、記録

# 【環境保全】のポイント



しあわせ信州

**環境への配慮を欠いた農業生産は、経営的にも社会的にも持続的とはいえません。**

農業の多くは、開放された場所で行われています。

農地は、水や空気を通して地域とつながっています。

- ・法令を守っているか
- ・科学的根拠に基づく農業生産活動
- ・環境負荷の発生源となっていないか

# 【労働安全】のポイント



しあわせ信州

作業者が健康であってこそ、持続的で安定した農業生産ができます。

安全第一 ⇒ 危険はどこにあるか予測  
やり方を変えることを考えるきっかけになる

## ▲重大事故の発生

→軽微な事故・ヒヤリ・ハットの積み重ね

- ・潜在的な危険要因を見つけ・共有する
- ・安全のための良い習慣づけ



## 長野県適正農業規範

～ “持続的な農業生産” に向けた、  
食品安全、環境保全、労働安全のため



長野県GAP推進会議

農産物の安全を守るため  
GAPは全ての農業者が実施  
する必要があります

農薬を取り扱う方も、農産物の  
安全を確保するためにGAPを  
理解した上で農薬を扱いましょう